

ピッツィゲットーネ

ボローニャ、フィレンツェ方面は、ユーロスター（ES）が混んでいるので、席が取れないと判断して、久しぶりに、サンドナート近郊の小さな村を訪ねることとしました。こちらで購入した「小さな街・村」の本にありますピッツィゲットーネが今日の目的地です。ピッツィゲットーネは、「最も美しい村」には入っていませんが、この「小さな街・村」では、城壁に囲まれた村として入っていました。ロゴレドからマントヴァ行きの列車に乗って、クレモナの一つ前の駅、ピッツィゲットーネ・ポンテ・ダッダで降ります。ポンテ・ダッダ（アッダ川の橋）は、クリスビ・ダッダと同様に、名前の通り、アッダ川沿いの街です。駅に到着したらアッダ川方向に戻る道を歩きます。10分しないうちに城壁がありますので、その城壁を過ぎると、そこが、ピッツィゲットーネの旧市街です。

ピッツィゲットーネの旧市街はアッダ川の両岸にあり、西側の地域はピッツィゲットーネで、東側はゲラと呼ばれています。城壁は12世紀に出来た（一部の門は15世紀とのこと）もので、両岸の旧市街全体を取り囲んでいます。城壁は3分の2以上が現存しています。全長は2キロ、高さは平均で12メートル、外側の堀まで入れた幅は平均15メートル、城壁の厚さは平均3.6メートルあるそうです。城壁は、単なる壁ではなく中を人が通れるように空洞になっていて、外側には堀を設けて川の水を引き込んでこの城壁の防衛は完璧だったようです。このピッツィゲットーネ城壁は、中世のイタリア都市抗争（ヴィスコンティ・スフォルツァ支配時期及びスペイン・オーストリア支配時期）では重要な要塞となり、1866年までは実際に使われていたとのこと。今では、街起こしのひとつとして観光に力を入れているようです。そういえば、駅にも看板も出ていました。

川の西側の城壁はほぼそのまま残っています。クレモナ門の外側部分は公園となっていて、トーチカのように膨らんだ大砲を撃つ要塞部分を間近に見ることが出来ます。もちろん、大砲を撃つ穴も開いています。大砲がまだある穴もあり、ツアー・インフォメーションには、昔の大砲の弾丸まで飾ってありました。また、弾薬庫も城壁の傍に現存していました。12世紀には、城壁の中（西側のエリア）にはお城が建てられたのですが、今は、お城の4つあった城塔のうちの2つだけが現存しています。但し、一つは半分の高さしかありませんので、東側に渡る橋の傍に一つだけ完全な形の城塔を見ることが出来ます。それに、ほぼ城壁と同時代に建てられた教会と市庁舎も見ることが出来ます。川の東側に行くと、城壁は半分ほどしか残っていません。こちらの城壁は高さが低く幅も小さめです。東側にある城門としてはクレマ門が残っています。他に、15-18世紀に建てられた3つの教会があります。その一つは非常にユニークな教会で一見の価値があります。





川の西側の教会は 12 世紀に建てられています。中には入れませんでしたが、ロマネスク建築の立派な教会です。教会の名はサン・バッシアーノ教会と言います。以前に見たローディ・ヴェッキオの古い教会と同じく紀元 4 世紀のローディ・ヴェッキオの司教であった聖バッシアーノを拝しています。この教会はお城や城壁と同じ時期に建てられたので、城壁と同じ赤レンガで造られこの街の風情にマッチしています。その教会の前には、これも赤レンガで 15 世紀に建てられた市庁舎があります。ツアー・インフォメーションはこの広場の一角の城壁の一部にあります。

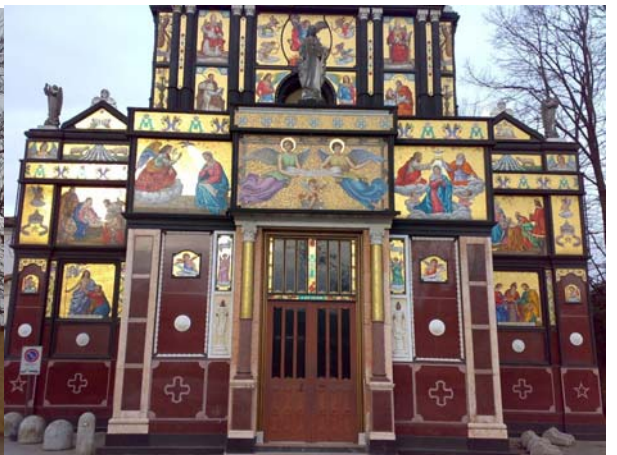


川の東側に行く橋のそばに昔のお城の城塔が建っています。この城塔も 12 世紀に建てられたものです。城塔の回りは公園になっていて、ツアー・インフォメーションにあるお城の模型を思い出して、

在りし日のお城（アッダ川に沿って建てられていた）を想像できます。また、橋の上からのアッダ川越しの景観もすばらしく、やはり、田舎の街は景色が良いですね。この日は朝のうち晴れていたのですが、この時分は薄曇でした。しかし、地平線にはくっきりと周りの山々が見えていました。



橋を渡って東側の旧市街にはいると、街の一番奥、東端の城壁のそばにユニークな教会がありました。サン・ピエトロ教会と言って、建てられたのは18世紀なのですが、教会の外壁全体に壁画が描かれています。このような教会はイタリアで始めてみました。外側までキンキラキンの教会なのです。薄い夕日が当たって、輝きがなかなかすばらしい教会でした。素人好みです。このゲラ地域は小さなエリアですが、他にも15,6世紀に建てられた教会が2つあります。



こんな小さな街ですが、ちゃんとツアー・インフォメーションがあり、その中に、昔のお城の模型があります。日曜日にもかかわらず、おじさんが来てツアー・インフォメーションを開けてくれて、中に飾ってある兵器、昔の地図や写真等（小さな博物館になっている）を見せていただき、いろいろ話を聞かせてくれました。もちろんイタリア語なので何を言っているのかほとんど理解できませんでした。ガイドを頼むとガイド（もちろんイタリア語です）もしてくれるとのこと。イタリア人の夫婦はガイド付きのツアーをしていました。やはり、観光ずれしていない田舎の人たちは親切ですね。日曜日なので城壁の公園も閉まっていたのですが、ちゃんと開けてくれました。最近是世界遺産の観光を続けていたのですが、田舎の街も見捨てるわけにはいきません。本当にイタリアにはいろいろなところがあります。今回も、満足して帰ってきました。

ピッツィゲットーネは、ローディの南東に位置していて、ロゴレドから普通列車で行く事が出来ます。簡単に行くことが出来ますので、それが今回、混んでいる列車を避けて、ここを選んだ理由です。マントヴァ行きのレジョナーレに乗って、ロゴレドから4つ目の駅、ピッツィゲットーネ・ポンテ・ダッダ駅で降ります。列車がコドーニョを過ぎてアッダ川の陸橋を通り過ぎたら直ぐに到着します。ポンテ・ダッダまでは、ロゴレドから40分で着きます。クレモナの一つ手前の駅で料金も4.8ユーロです。ピッツィゲットーネは人口7000人に満たない小さな街ですので、ポンテ・ダッダ駅は、隣のコドーニョやクレモナと違って、何故、こんなところに列車が停まるのか不思議なほどのかなりの田舎駅でももちろん無人駅です。切符の自動販売機もありません。従って、ここに行く時は、ロゴレドで帰りの切符も一緒に買っておくようにしてください。

実は、ピッツィゲットーネには駅が2つあって、ピッツィゲットーネ・ゲラ（アッダ川東側の地域の名）とポンテ・ダッダです。但し、マントヴァ行きは、ポンテ・ダッダしか停まりませんので、どちらで降りるか迷うことはありません。今回は、日曜日の12時半の列車で行って、2時間半（街は小さいのでこれで十分です）街を歩いて、ロゴレドに戻ったのは4時半です。本当に気軽に行ける田舎の観光地です。調べていませんが、多分、サンドナート又はローディからバスでも行けると思います。天気が良ければ、このあたりのロンバルディ平野をバスで走るのも楽しくなります。

最後に、ちょっと気になる情報をお知らせします。城壁の内側で、聖バッシアーノ教会の裏あたりに、美味しそうなレストランが2,3件ありました。周りの街の雰囲気も良く、このあたりのレストランは人気があると思います。でも、車がないととても行けそうにありません。

この「小さな街・村」の本に載っている小さな街も、「最も美しい村」と同様に、すばらしいところだとわかりました。これからも、一つ一つ訪ねることとします。但し、小さな街は、ここのように列車で簡単に行くことが出来るところはほとんどなく、列車とバスを乗り継いで行かなくてはいけないところばかりです。バスのタイムテーブルを調べるのが大変です。